



# 令和7年度 学島小学校 学校評価アンケート結果報告

対象者 : 全校児童 (1年～6年)  
実施期間 : 2025年12月

# エグゼクティブサマリー：良好な人間関係を基盤に、 高学年での「学習意欲」の維持が鍵

Noto Sans JP



- 本アンケート結果は、学島小学校の児童が、総じて高い自己肯定感と良好な友人関係を築いていることを示しています。これは本校の教育活動の大きな成果です。



- 一方で、4年生以降の高学年にかけて、「家庭学習の習慣」や「将来への目標意識」といった項目でポジティブな回答率が低下する傾向が明確に現れました。
- この「心の成長」と「学びへの姿勢」のギャップを理解し、対策を講じることが、今後の重要な課題であると結論付けられます。

# アンケートの概要と回答者の構成

本調査は、児童の学校生活全般に対する認識を把握するため、自己認識、友人関係、学習習慣、生活習慣など、22項目にわたる質問で構成されています。



自己認識・自己肯定感



友人関係・協調性



学習への取り組み・習慣

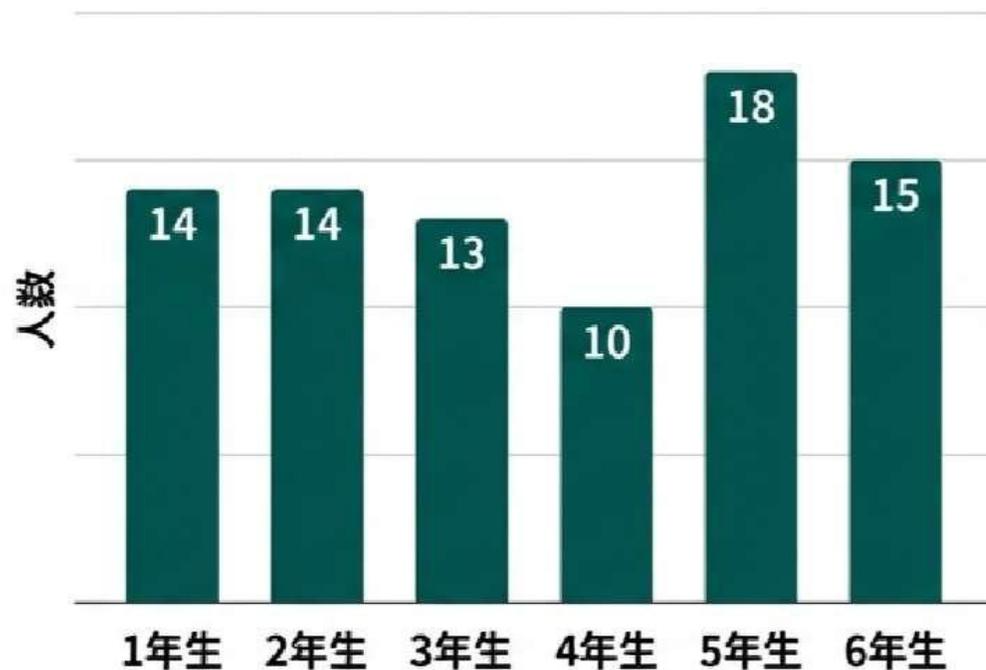


生活習慣・デジタルシティズンシップ



将来への意識

学年別回答者数 (N=84)



# 本校の強み：子どもたちは、心豊かで 良好な人間関係を築いている

アンケート結果から、本校の児童が持つ社会性・情動的スキルの高さが際立っています。特に自己肯定感、協調性、規範意識において、学年を問わず非常に高い水準を示しており、これは本校の教育環境の大きな強みです。



## 自己肯定感と協調性は、学年を問わず極めて高い水準

95%

「友達と協力するのは楽しい」

ほとんどの児童が、友人と協力することに喜びを感じています。



ポジティブ回答率

86%

「自分にはよいところがある」

自己を肯定的に捉える児童が大多数を占めています。



ポジティブ回答率

# 「人を助ける」「いじめはダメ」という強い規範意識が浸透

児童は他者を助ける意識が非常に高く、いじめに対しては断固として否定的な姿勢を持っています。また、困った際には誰かに相談できるというセーフティネットも機能しています。



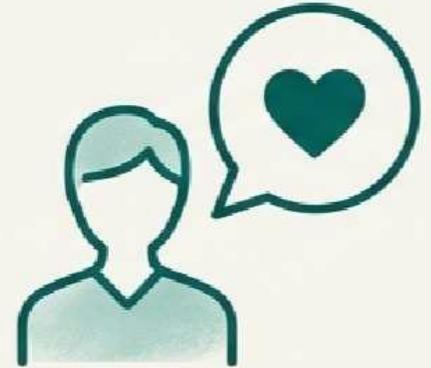
92%

「人が困っているときには、  
進んで助けている」



98%

「いじめはどんな理由が  
あってもいけないことだ」



88%

「困ったことがあったら  
相談できている」

## 一方で、高学年に移行するにつれて、いくつかの重要な変化が見られる

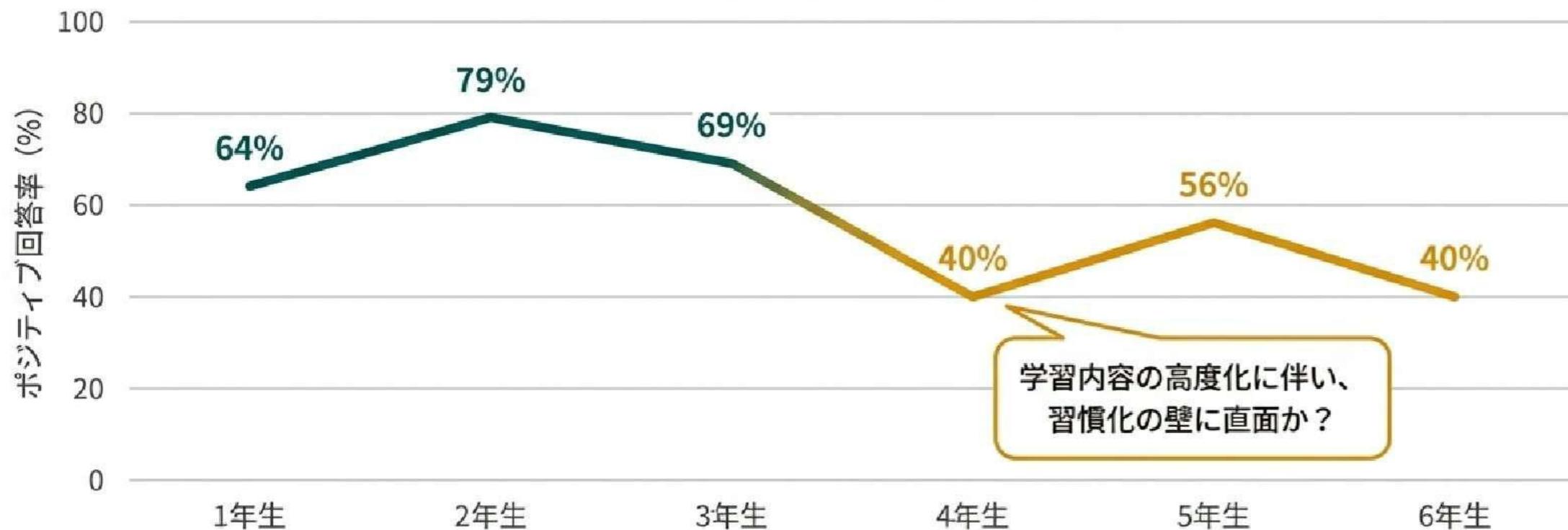
児童の社会性・情動面が安定している一方で、学習への取り組みや将来への意識といった側面では、学年が上がるにつれてポジティブな回答が減少する傾向が見られます。これは、児童が直面する課題がより複雑化していることを示唆しています。



## 「家庭学習の習慣化」に大きな学年差。4年生を境にポジティブ回答が急落

「毎日かかさず、家でも勉強をしている」という質問に対するポジティブ回答率は、低学年では高いものの、4年生から顕著に低下し、中学進学を控えた高学年でも回復していません。

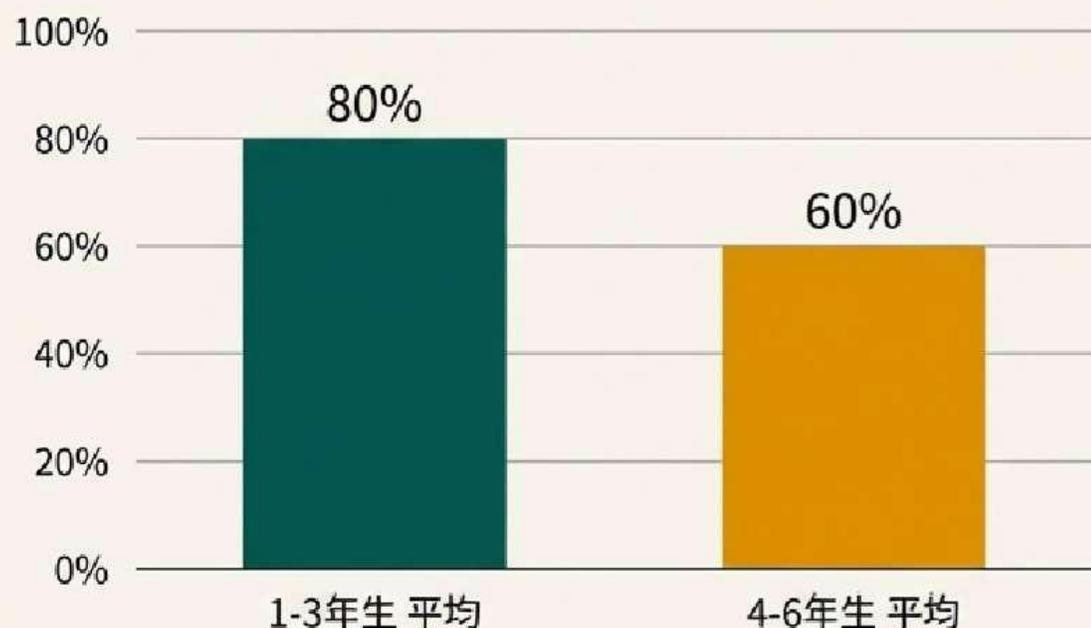
「毎日、家でも勉強をしている」  
ポジティブ回答率の学年別推移



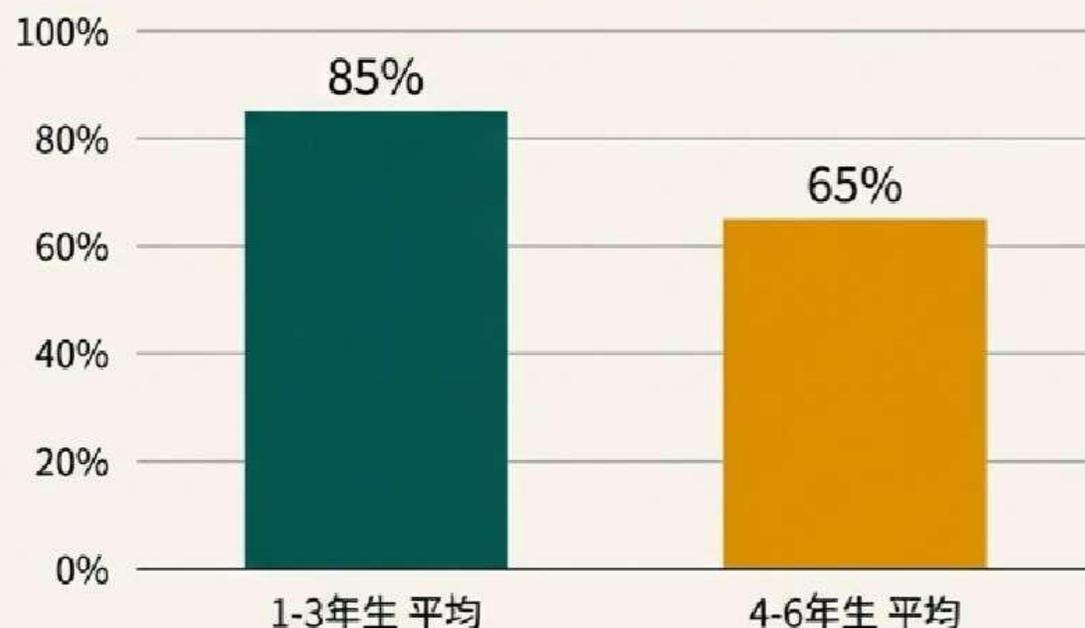
## 「やり抜く力」と「将来の夢」、高学年での低下傾向が学習習慣と連動

学習習慣と同様に、「決めたことを最後までやり遂げる」という粘り強さや、「将来の夢や目標を持つ」という意識も、高学年にかけて低下する傾向が見られます。

### 「自分で決めたことは最後までやり遂げる」



### 「将来の夢や目標を持っている」

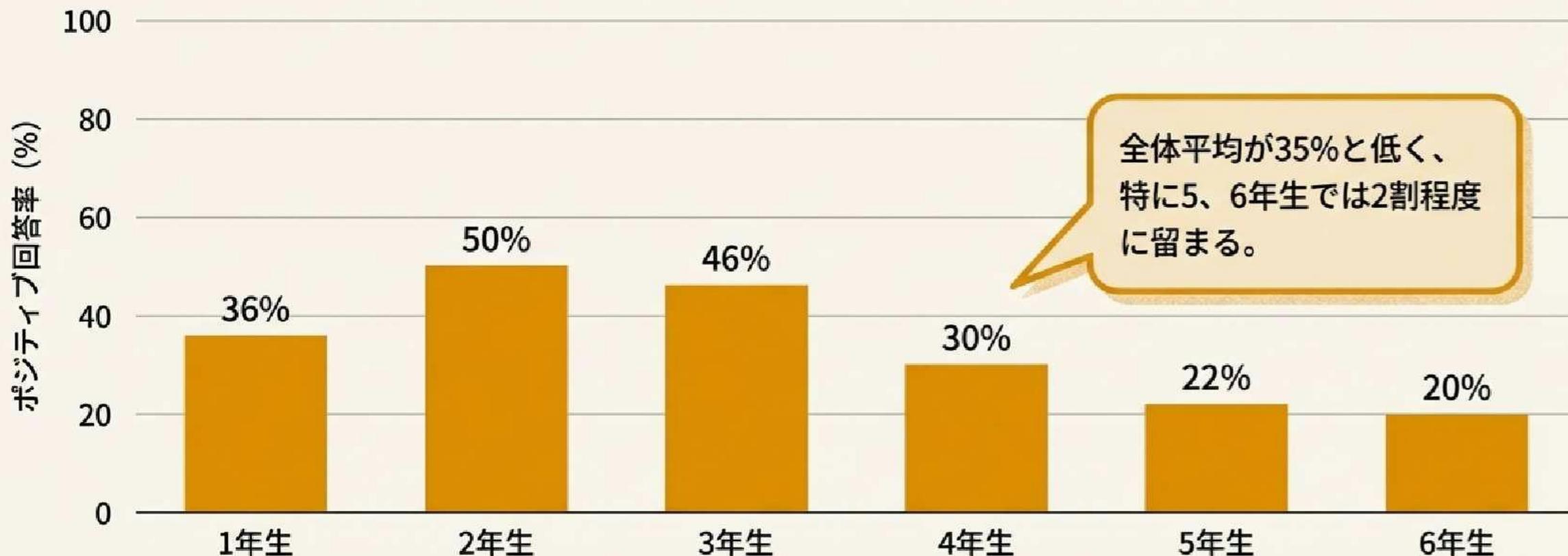


インサイト：学年が上がるにつれて、学習への動機付けや目的意識の維持に支援が必要な児童が増えている可能性を示唆しています。

# 読書習慣は全学年で課題。特に高学年での離脱が深刻

「できるだけ本や新聞を読むようにしている」児童の割合は、全学年を通じて低い水準にありますが、特に高学年になるとその割合はさらに低下します。これは基礎学力の定着における懸念材料です。

## 「本や新聞を読むようにしている」ポジティブ回答率



# Spotlight：現代的な生活スキルにおける現状

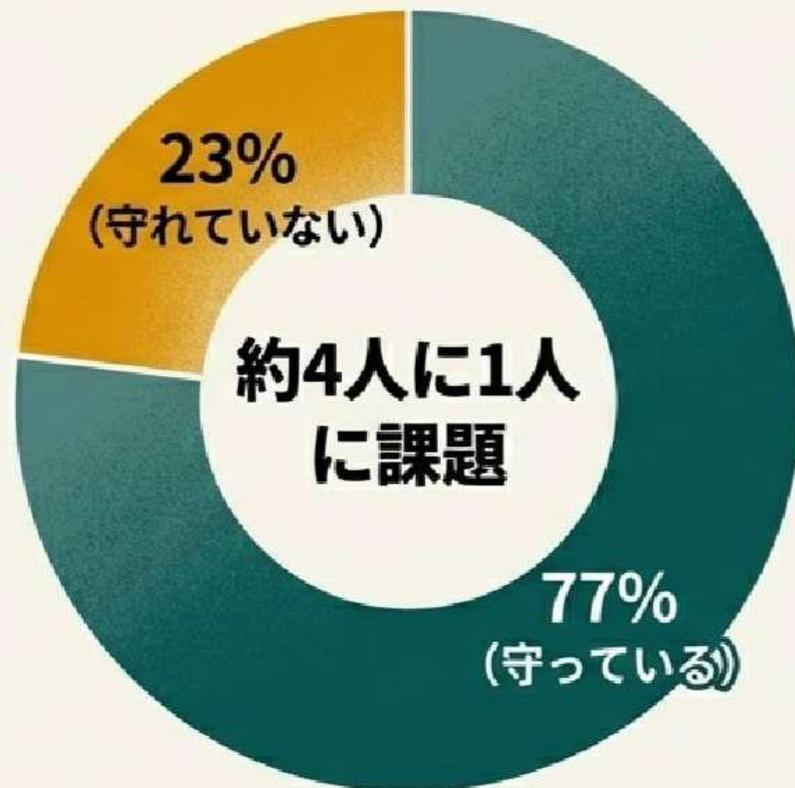
学習面での課題に加え、デジタル機器との付き合い方や、基本的な生活習慣においても、いくつかの注目すべき点が見られます。これらは家庭との連携が特に重要な領域です。



# デジタル機器の利用ルール、約8割は遵守も、2割に懸念

「スマホやコンピュータ利用時の家族との約束を守っている」と回答した児童は全体の77%に上ります。しかし、約4人に1人がルール遵守に課題を抱えており、継続的な指導と見守りが必要です。

## デバイス利用に関する家庭での約束の遵守状況



## 「外遊び・運動」と「身の回りの整理」、一定数が苦手意識

子どもたちの健やかな成長に不可欠な身体活動や、自立の基礎となる整理整頓について、それぞれ約3割、2割の児童がポジティブに回答できていません。

「進んで外で遊んだり運動したりしている」

ポジティブ回答率 69%

A horizontal bar chart with a dark teal segment representing 69% and a light orange segment representing 31%.

31%の児童は運動習慣が不十分な可能性

「身の回りの整頓など、自分のことは自分でできている」

ポジティブ回答率 79%

A horizontal bar chart with a dark teal segment representing 79% and a light orange segment representing 21%.

21%の児童は基本的な生活習慣に支援が必要か

# 総括：「心の安定」を土台に、「学びへの意欲」の維持・向上が次の一手

## 本校の強み (Foundation)



**高い自己肯定感と協調性**：児童は自分を肯定し、仲間と協力することを楽しんでいる。



**強固な規範意識**：いじめへの断固たる姿勢や、他者を助ける気持ちが育っている。



**安心できる人間関係**：困ったときに相談できる環境がある。

## 今後の課題 (Opportunity for Growth)



**高学年での学習習慣の低下**：特に家庭学習の習慣化が大きな課題。



**目標意識の希薄化**：将来の夢や目標を持つ意識が、学年と共に低下傾向。



**基礎となる読書習慣**：全学年を通じて読書量が不足している。



**一部の生活スキル**：デジタルルールや基本的な生活習慣に課題を抱える児童への個別支援。

# 今後の課題

---

- ・低学年で高い学習意欲をもたせ、高学年までどう維持・発展させるか。
- ・家庭と学校は、子どもたちの「やり抜く力」と「目標設定」をどう連携して支援できるか。
- ・全学年共通の課題である「読書週間」や「生活スキル」向上のための、効果的なアプローチは。

これからも課題解決に向けて、学校運営の改善に努めます。

今後ともよろしく申し上げます。